

CLILを利用した英語教育

内 藤 徹

(2015年4月3日受理)

English Teaching using CLIL

NAITO Tohru

キーワード key words

英語教育(English teaching)、内容(content)、言語(language)、統合(integration)

1. はじめに

CLILとは、ヨーロッパで普及している理科や社会などの科目内容と言語を統合した学習のことで、歴史は長いが最近注目されている学習形態で、かつ有効な指導法(methodology)と言える。CLILは [klil]と読み Content and Language Integrated Learning の略語である。日本語では「内容言語統合型学習」といい、具体的には「他の科目の内容や関連のあるトピックを扱い、その学習を出来るだけ目標言語（この小論の中では英語）を使って、考え、活動し、コミュニケーションをする」方法である。

英語での定義はいろいろあるが、簡略なMarsh(1994)をとりあげれば次のようになる。

CLIL refers to situations where subjects, or parts of subjects, are taught through a foreign language with dual-focused aims, namely the learning of content, and the simultaneous learning of a foreign language.

2. CLILの理論

1) CLILの多面性

狭義の語学学習から広義の教科学習まで考えられ、(狭義) methodology → facilitation of language → approach → fusion/synergy → systematic

ヨーロッパではCLILが定着している。

*Key Data on Teaching Language at School in Europe: 2012 Edition*によると、CLILは bilingual や immersion 教育を表す総合的な用語で、言語の種類により2つに分類される。1つ目は「外国語で教えられる科目で、外国語のみで教える場合と外国語と母語の2言語で教える場合」である。2つ目は「地域言語と母語で教える科目で、多言語状況が想定される場合」である。ヨーロッパでは、いろいろな言語と内容が組み合わせられ、多彩なCLILがあるが、扱う言語は主に英語である。CLILは柔軟性があるので、日本では小学校の「外国語活動」や中学校・高等学校の「英語を多く用いる授業」で展開されるのがよいと考えられる。

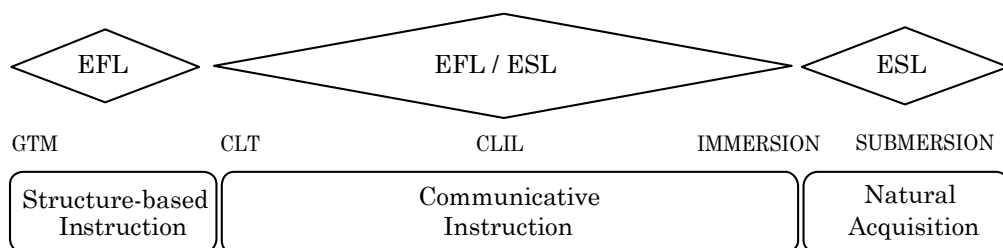
CLILは既存のいろいろな教育原理や技法を有機的に結合させることで、より良い学習を生み出すことができる。そのような統合にこそ、最大の特徴があるといえるであろう。

それでは、CLILを少し詳しくみていこう。

learning → mindset/attitude → education (広義) という図式になる。

2) 理論上の位置

EFLとESLが両極にあるとすれば、その中間に位置する。図示すると次のようになるであろう。
[池田 真(2011): 内藤改]



EFL=English as a foreign language 外国語としての英語（教育）

ESL=English as a second language 第二言語としての英語（教育）

GTM=Grammar Translation Method 文法訳読中心の方法

CLT=Communicative Language Teaching コミュニケーション中心の方法

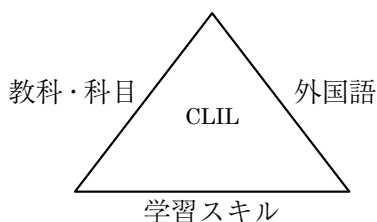
Immersion=教科・科目を目標言語で教える方法

Submersion=Sink or swimといわれる方法

3) CLILの特徴

教科（・科目）内容を語学教育の方法を用いて学ぶことにより、効率的でより深いレベルの修得ができる。また、目標言語を学習手段として使うことで実践力を伸ばすことができ、学習スキルの

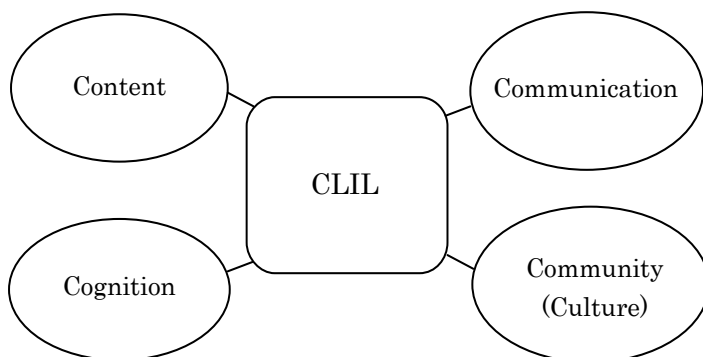
向上も意図されている。色々な教育原理や技法を有機的に統合することで、質の高い授業の実現を目指している。CLILは「教科・科目」「外国語」「学習スキル」を見据えた方法といえる。



4) CLILの4C

CLILは内容と言語だけでなく、思考と他者との学びも意識的に統合される。その統合される要

素は4つのCである。



Content ⇒ 内容（教科・科目やトピック）

Communication ⇒ 言語（言語知識やスキル）

Language of learning（単元の言語）、Language for learning（学習のための言語）

Language through learning（偶発的・繰り返し返しの言語）の3種類の言語学習がある

Cognition ⇒ 思考（批判的・論理的思考力）

6段階の思考力があり、最上階から Create→Evaluate→Analyze→Apply→Understand(Describe, Explain)→Knowledge(Remember) [Bloom's Taxonomy]

Community／Culture ⇒ 協学（協同学習、地球市民的意識）

最も小さな「教室」から「世界」へ広がる協同学習である。具体的には、Classroom → School → Town or city → Country → Region → Worldの方向となるであろう。

5) CLILの10大原理

- | | |
|---|-----------------------------|
| (1) 内容学習と語学学習の比率は1：1である | (6) 協同学習（グループ活動、ペア活動など）をさせる |
| (2) オーセンティックな題材（雑誌、新聞、インターネットなど）を利用する | (7) 内容と言語の両方を準備する |
| (3) 文字だけでなく、音声・視覚（映像、図、数字など）による情報を多く用いる | (8) 異文化理解、国際理解、比較文化などを取り入れる |
| (4) いろいろなレベルの思考力（創造、評価、分析、応用、理解、暗記など）を用いる | (9) 4技能をバランス良く取り入れる |
| (5) タスクを多く与える | (10) 学習スキルの指導を行う |

6) CLILの4つのタイプ

目的：英語教育としてのSoft CLILから科目教育としてのHard CLIL

頻度：単発的または少ない回数のLight CLILから定期的または多い回数のHeavy CLIL

比重：授業の一部としてのPartial

CLILから授業の全部を行うTotal CLIL

言語使用：母国語と外国語（英語）の両言語を用いるBilingual CLILから外国語のみを用いるMonolingual CLIL

3. CLILの利用

- | | |
|---|--------------------|
| 1) 私が本学で用いているテキストはCLILを利用したものが多い。この中では、次の点に留意しながら英語の授業を行っている。 | (3) クラスメイトと協力して学ぶ |
| (1) 英語と日本語を通して異文化、国際問題などに関する様々な知識を身につける | (4) 英語を学習内容と関連して使う |
| (2) 自律学習の力をつける | (5) 英語で考える |
| | (6) 英語でコミュニケーションする |
| | (7) 興味のあることを探求する |

2) 私が本学で用いているテキスト：CLILを基本として行う。



3) 授業例

ここでは *Inside Stories U.S.A.* [森田彰・他著, 成美堂] の” Chapter 2” を例に説明する。

Chapter 2 On the Road

I Pre-viewing: Vocabulary Check

Circle the letter of the item that has the same meaning as the underlined word.

1. I have a mobile phone that I can take everywhere I go.
 - a) can move
 - b) can be moved
 - c) changes easily
2. My father retired from his job at the university at the age of 65.
 - a) was fired
 - b) stopped working
 - c) transferred
3. Our new house has a spacious kitchen and dining area.
 - a) having a lot of room
 - b) having a lot of facilities
 - c) having a lot of chairs and tables
4. All of her colleagues supported Ms. Hanes when she was fired by her boss.
 - a) consented to b) helped c) saved
5. Jim has an enduring passion for travel.
 - a) endless b) durable c) long-lasting

ビデオを見る前に行う重要語句のチェックである。まず辞書を引かずに下線部の語(句)とほぼ同

じ意味のものを選び、一応終わったらパソコンなどの辞書で確認してもよい。授業では意味の確

認を行ったあと、文化や習慣など、このChapterで扱われる内容について大まかな質疑応答を行う。この段階では学習者の推測に間違いがあるか

も知れないが、ここではその間違いは大目に見れば良い。予測力、推測力を養うことも、英語学習の大切なポイントである。

II What to Watch For

Read the following questions before watching the video and answer them while you watch it by filling in the blanks.

1. What is more often seen on North American highways than Japanese ones?
() are more often seen there.
a) People who camp along the road
b) Campers and mobile homes
c) People who drive slowly
2. What did Mr. and Mrs. McKeeney do after Mr. McKeeney retired a year ago?
They ().
a) bought a station wagon
b) sold their house and bought a camper
c) resolved to visit their old friends
3. About how many retired Americans are said to be traveling around the country?
().
a) 16,000 b) 160,000 c) 1,600,000

ビデオを見る前に質問を読んでおくことで、聴き取りのポイントが分かり、内容の予測をすることが出来る。そして、ビデオ視聴中またはその後、

実際にこれらの質問に答えていく。ここで、分かった文化や習慣などについて友達と話し合いをしたり確認をしたりする。

III Partial Dictation

Listen to the tape and fill in the missing words.

A. Modern communication technology supports the McKeeney's lifestyle too.

"This is my cellular phone, which I use to 1()()()()
the family wherever I go."

B. "We have 2()()(). And one of the things that is something
different and you meet so many new and wonderful people all the time."

"We receive 3()()()() from the people that were there..."

"... which we were there that we meet along the way so we make enduring friends"

"So 4()()()() all the time."

ビデオは1回だけでなく必要な場合2～3回視聴することもある。英語の文章がだいたい理解でき

た後で、その素材から抜き出したパッセージの空所を埋める問題に挑戦させる。ブランクは一般的

に10～15個で、内容語(content words)だけでなく、機能語(function words)や音変化なども含まれている。たとえ聞き取れないところが

あっても推測することによって分かることも大切である。文化、内容などとの統合であるスキーマ(schema)による理解力をつけることにも繋げたい。

IV Comprehension Check

After watching the video again, answer the following questions by circling T if the statement is true and F if it is false.

1. In the Arizona desert, land for mobile homes is inexpensive.
T F
2. These days many retired couples have taken to the road in campers or mobile homes.
T F
3. The McKeeneys' camper has a spacious living room with TV, a compact kitchen, a toilet, shower, and washing machine.
T F
4. People like the McKeeneys like to live alone and don't want to keep in touch with their old friends.
T F
5. Wanting to live free and unrestricted is a part of American culture.
T F

T(true) or F(false)でのチェック。もう1度ビデオを視聴し、全体的な内容理解度をチェックする問題である。ただTかFの解答をするだけでなく、特にFの場合、どこが間違っているかの確認も行

うと、より正確な内容把握に繋がる。クラスメートと答えを比較させると、より内容理解も深まるであろう。

V Dialogue Practice

1. Listen to the model dialogue on the tape.

Model Dialogue

A: My parents are planning to buy a camper and travel around the country.

B: I heard your father just retired from his job in the post office.

A: Year. I hadn't ever thought of what they were going to do after retirement.

Do you know how your parents spend their free time?

B: My father likes to go golfing and my mother is studying sociology at a nearby college.

A: That's really impressive. We all need something we can do our whole lives.

B: Year, I'm planning to keep surfing until I'm at least seventy-five.

2. Repeat the dialogue in the pauses provided on the tape.
3. Take the part of B in the dialogue.
4. Take the part of A in the dialogue.

ビデオの内容に関連した会話になっている。ここでは、主体的な発表能力やコミュニケーション能力を身につけることを目指している。

- ① 模範となる会話を聴く
- ② ビデオに録音されている音声か教師の後に

続いてA、Bの役割を交互に練習する。大きく明瞭な声を出せることが大切である。また、テキストを見ないでできるようになれば、小さい間違いがあっても、コミュニケーションが成立していれば効果は充分あると言える。

VI Pair Activity

Working with a partner, complete the following dialogue.

A: My parents are planning to _____.

B: I heard your father just retired from his job in the post office.

A: Yeah. I hadn't ever thought of what they were going to do after retirement. Do you know _____?

B: My father _____, and my mother _____.

A: _____. We all need something we can do our whole lives.

B: Yeah, I'm planning to keep _____ until _____.

学習者がペアになり、相談しながらブランクを埋め、自分達のオリジナルな対話を考えていく。そして、実際に対話を練習し、できれば全員の前

で行うのがよい。英文の作成、アイデアなどアクティヴな活動になるようにする。

4. 学習者へのアンケート

CLILを活用した英語教育が、どれくらい効果的であると学習者が思っているのかをアンケートで調べてみた。

学習者へのアンケート：

CLILを活用した英語教育について答えて下さい。

この英語教育は良いと、

a = 強く思う、b = 思う、c = 普通、d = 思わない、e = 全く思わない

各段階における数字はパーセントである。

アンケート：最終15回目の授業時

A大学 n=72

	a	b	c	d	e	χ^2 -test
内容が楽しい	56	38	6	0	0	各項目間
動機づけになる	49	43	8	0	0	***p<0.001
理解しやすい	92	6	2	0	0	0.1%水準で有意差あり

B大学 n=59

	a	b	c	d	e	χ^2 -test
内容が楽しい	47	42	11	0	0	各項目間
動機づけになる	35	48	17	0	0	***p<0.001
理解しやすい	56	35	9	0	0	0.1%水準で有意差あり

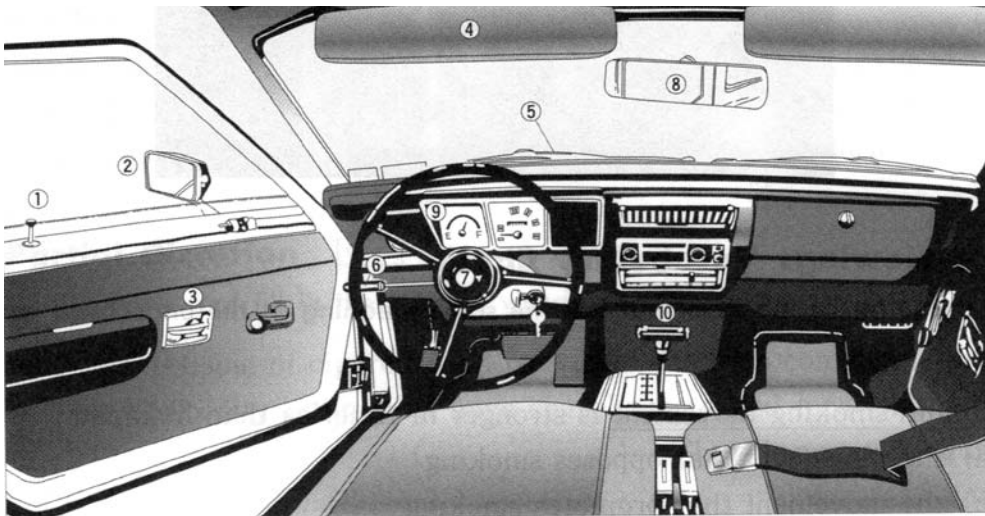
A大学はaとbをまとめて「内容が楽しい」が94%で、「動機づけになる」が92%、「理解し易い」は96%であった。B大学も傾向は同じで「内容が楽しい」が89%、「動機づけになる」が83%、「理解し易い」は91%であった。両大学とも思わないはdとeをまとめてゼロであった。これらのアンケートではa・bとも数値がかなり大きい。

総合的にみると、学習者はCLILを活用した授

業が「楽しく」「やる気が出て」「より理解し易い」と感じているといえる。 χ^2 検定でも項目間に0.1%水準での有意差がみられる(** $p < 0.001$)。なお、学習者による記述式のコメントでは「英語が身につつき易い」「内容に引きつけられ、楽しく学べる」「理解がし易く、前向きになる」などが多くあった。

Ⅶ Give It a Try

Referring to the illustrations, fill each blank with the number of the correct item.



- | | | | | | |
|----------------------|-----|-----------------|-----|---------------------|-----|
| 1.brake light | () | 2.child' s seat | () | 3.door handle | () |
| 4.door lock | () | 5.gas gauge | () | 6.gearshift | () |
| 7.horn | () | 8.license plate | () | 9.rear bumper | () |
| 10.rearview mirror | () | 11.side mirror | () | 12.tire | () |
| 13.turn signal lever | () | 14.visor | () | 15.windshield wiper | () |

教材の内容と表現を踏まえた発展練習である。問題の形式はChapterによって異なる。表現練習、リスニング、インターネット上の情報の検索などもある。ここでは、自動車の各部分の英語での名称を問

う問題である。自動車というのは、男女を問わず、学習者には興味のある事柄でモチベーションを高く保つのによい。日本語と英語の違いなど、新しい発見も数多くある。

5. おわりに

以上見てきたように、ただ英語の問題をこなしていくだけでなく、学習者の興味・関心を引き出し、内容を理解し、その内容を身につけながら、英語も習得していくという方向性が、実りある英

語の学習へと繋がっていく。文化、習慣、行動、考え方など様々な事柄を学習し、理解しながらモチベーションを高め、英語能力も向上させていく方法CLILは大きな効果が期待できる。

参考・引用文献：

Eurydice(2012), *Key Data on Teaching Language at School in Europe:2012 Edition*. Education, pp.7-10. Audiovisual & Culture Executive Agency
池田 真(2011),「CLILと英文法指導：内容学習と言語学習の統合」『英語教育』10月号. pp.34-36. 大修館書店
L.W. & Krathwohl, D.R.(Eds.)(2001), *Bloom's Taxonomy, based on an APA adaptation of Anderson*.
<http://thesecondprinciple.com/optimal-learning/>

Marsh, David(2012), *Content and Language Integrated Learning(CLIL) A Development Trajectory*.
<http://www.google.co.jp/url?sa>
森田 彰・他(2007), *Inside Stories U.S.A.* pp.6-9.成美堂
大八木廣人・他(2005), *Happy Days in England*. 成美堂
笹島 茂(2013),「CLILはおもしろいー背景とその可能性」『英語教育』6月号, pp.10-11. 大修館書店